前田裕晤さんを偲ぶ会

2019年11月30日

エル大阪にて

常に闘いの先頭に

０４年３月春季大阪総行動

追悼　前田裕晤さん（1934－2019）

1942 年　国民学校 1 年の前田少年（右）

1960 年 1 月 16 日羽田にて

90 年闘う大阪メーデーにて

電通合同・大阪全労協を基盤として

交渉・行動・集会　いつも前面に

スト通告と交渉

デモ

前田裕晤さんを偲ぶ会

2019年11月30日（土）16時

エル大阪10F梅・寿

式次第

司会　　新開純也　（反戦・反貧困・反差別共同行動　世話人）
山下恒生　（大阪全労協顧問）

黙祷

開会の挨拶　但馬けいこ　（大阪全労協議長）

献杯　　仲尾　宏　（反戦・反貧困・反差別共同行動　代表世話人）

思い出の映像　　（その間ご歓談ください）

追悼の言葉　　各時代・各界・各地域を代表しての追悼の辞

ご遺族からの挨拶

閉会の辞

午後6時前　閉会予定

前田裕晤さん略歴

「前田裕晤が語る大阪中電と左翼労働運動の軌跡」より抜粋・追加

1934.5.4　東京にて、父馨・母明子の５人兄妹の長男として生まれる
1941.4　品川・第四日野国民学校入学、のち目黒・鷹番国民学校に転校
1944.7　学童疎開により、父母の郷里、和歌山・九度山校に転じる
1946.3　さらに山奥の境原校５年終了。中学受験資格試験に合格
.4　和歌山県立伊都中学校(旧制)入学
1948.4　女学校と合併、紀見中学校に転じる。父病死 43 歳、翌年卒業
1949.4　和歌山県立橋本高等学校入学。アルバイトに精を出す
1950.4　２年で休学。淀逓信講習所を受験、京都電気通信学園普通電信科に入学
.10 レッドパージの後補充として繰り上げ卒業、電気通信省・大阪中央電報局に配属
1951.4　夜勤(16-22)が可能となり、同志社香里高校２年に編入学。中電支部・支部委員
1952.　樽井(のち藤川)・松葉・前田ら共謀して中電全寮協議会を結成
1953.4　同志社大学文学部社会学科入学。大阪電通文学会を結成。共産党に入党
1954.　中電より大学に通学していたメンバーを中心に大阪電通労働研究会(第一次)を結成
.10 李徳全・中国紅十字代表来日、特別防衛隊として関西滞在中、全行程に随行
1955.5　学生運動にも参加、新聞研究会を再建。社会学科委員長になる
.8　広島 8.6 第一回原水爆禁止大会に同志社学生代表団として参加
1957.3　同志社大学卒業、大学院に。大阪にて民主主義科学者協会(民科)歴史部会に参加
1958.11 警職法反対闘争でスト拠点に指定されるも、山岸執行部が返上。中電細胞内で対立
1959.4　立命館大学大学院日本史研究科に転入学－奈良本辰也ゼミ
.11 日共内部対立激化、中電でも査問に掛けられ、大学の後輩とともにブントに加入
1960.1　岸渡米阻止闘争。大阪労働者代表団上京するも分裂し、大阪中電代表団は羽田へ
1961.4　日共反対派狩り始まる。まず前田、続いて青木・伊藤も除名され、集団離党事件へ
.6　労働運動に限定した責任ある組織として“電通労研”を結成
1962.4　関西労働者協会の設立。大阪労働者学園を発足させる
.7　全電通大阪中電支部執行委員に当選、教宣部長になる
1963.3　大学院修士課程修了、修士論文“日本新聞発達史の一考察”
.5　住谷教授夫妻の媒酌にて、飯田浩子さんと結婚
1965.4　春闘で国労支援、大阪環状線玉造駅で大阪中電動員部隊と機動隊が衝突、怪我人・逮捕者出る。
のち前田、指揮責任を問われ、浪速署に逮捕されるも、不起訴・釈放
電信反戦青年委員会をつくる。北大阪反戦青年委員会、関西地区反戦と発展
1967.8　ＡＡ連帯の堀江氏の紹介で高野実元総評事務局長と会う。左派統一戦線の必要性
1968.1　佐世保・エンプラ闘争に参加。労働者もヘルメットを初めて着用
1969.1　長崎社研・電通労研の呼び掛けで“全国左翼労働者会議”を開催。六派共闘の基盤
.8　マッセンストの位置づけをめぐって、労研が分裂

.9　ブントの内部抗争もあり離脱、大衆運動主義者のレッテルを貼られる
1971　中電支部が大阪中央支部となり、中電分会副分会長。全国労働者活動者会議結成
1972.12 全労活第一次訪中団として香港経由で中国に。元旦を韶山の毛沢東記念館で迎える
1974.　参議院全国区に革新無党派として三里塚空港反対同盟の戸村一作氏を立てる
1975.　『季刊労働運動』を関西の地、尼崎より編集委員会を作って発行
1977.1　大阪にて　“日本資本主義と対決する全国労働者討論集会”ひらかる
.2　前総評副議長・松尾喬氏を代表として『労働情報』発行され、編集委員となる
1980.12 近畿電気通信局、12 億余りの不正発覚。前田・木村の連名で氏名不詳で司法告発
1981.11 京都にて地県評代表者会議開催、京都労研代表として林大鵬さんの最後の姿を見る
1982.　全国労組連絡会議の結成に参加
.12 長野県諏訪市で「労研センター・結成準備会」開かれ参加
1983.3　太田薫・岩井章・市川誠の呼び掛けで労研センター発足。市川事務所より幹事就任
1985.4　電電公社、民営化により日本電信電話株式会社(ＮＴＴ)となる
.5　中国総工会の招待で日中労働者交流協会訪中団として北京メーデー記念式典参加
.12 全電通の路線に反対し大阪中電分会大会の席上決別を宣言し“大阪電通合同労組”を結成、委員長に就任。電通労組・徳島電通合同と電通労組全国協を結成、代表に
1986.　『労働情報』、樋口篤三氏の後を受け２代目編集人となる
1988.　“明日の労働運動を担う全国労働組合連絡会議”（十月会議、渡辺勉代表）結成
1989.12 連合・全労連に対抗して“全国労働組合連絡協議会”（全労協）結成、全国常任幹事になる。『労働情報』編集人を辞任。大腸憩室炎となり入院手術を受ける
1990.2　渡辺氏の後を受け十月会議の代表となる
1990.5　靱公園で独自メーデー。全港湾、全日建などとおおさかユニオンネットワーク結成
1990.8　中華全国総工会招待で市川誠代表以下６人の北京－蘭州－敦煌－南京－上海快遊
1991.2　大阪全労協結成、初代議長に就任
1992.4　勤続 42 年を期に永年退職する。以後、少し余裕を持って運動の専従になる
1993.1　『労働情報』代表就任。池上文夫広島県労協代表と協力し西日本春闘討論集会開催
1995.1　阪神・淡路大震災。大阪全労協全力で救援に当る
1995.7　参議院選挙、「平和・市民」の結成に参加
2000.1　キューバ職業総同盟の招請で前田議長、鈴木、望月、奥薗の訪問団派遣
2003.　衆議院選挙に護憲派共同の選挙共闘を呼び掛けるも不発
2004.7　第 16 回全労協全国大会、副議長に選出さる
2005.7　大阪全労協定期大会で議長辞任、顧問に
2007.7　参議院選挙に前田知克弁護士らと「九条ネット」を結成するも、結果実らず
2010.9　第 22 回全労協全国大会で副議長を辞任、21 年に渡る役員生活に終止符を打つ
2016.11　怒れる 60 年・70 年世代の会結成
2017.10　衆議院選挙　社民党服部良一で闘う
2019.2　政治懇談会への最後の出席（宇治）
2019.6　6 月 28 日　永眠

前田裕晤さんへの追想

偲ぶ会に寄せられたメッセージです。順不同です。

中谷　典子

裕晤の５人弟妹の末の妹です。早くに父をなくし、兄が父がわりとして、母を、そして私たちを支えてくれました。兄たちの奨学資金が唯一の生活費であり、毎月それを心待ちにしていたものです。私の教師への道を切り開いてくれたのも兄でした。兄との生活は全く記憶にはないけれど、今までの節々に、兄夫婦の力が大きかったのは、私にとっても幸せなことでした。新たな兄の一面を知りたいと思い出席しました。

稲村　守

2010年に沖縄から東京へと、石橋行受さん先頭の平和のウォークがありました。それを滋賀で受け入れよと前田さんから毎日毎日熱心なオルグの電話がありましたが気が進まずお断りしようと思いました。しかし、それはそれは熱心なおすすめに、ついに観念し、２０人位の３日間ほどの取り組みを行いました。結果、新聞に写真入りで大きく報ぜられました。その経験があったので、翌年の福島第一原発事故のあと、電話一つ、市民運動家数人の呼びかけで、５月８日“脱原発市民ウォーク in 滋賀”を取り組みました。２０人位来たら上出来と思っていたら３００人も来てくれ、以来継続しています。

2016年の７５０人参加の“原発全廃！びわこ一周デモ”もその市民ウォーク第５０回記念で取り組みでした。今年１２月１日には第８２回市民ウォークで“老朽原発うごかすな！高浜～関電本店２００Ｋｍリレーデモ”の一環で大々的に取り組みます。

前田さんはびわこを守る闘いの恩人です。今も、ホッとし、さぼっていると前田さんから電話が来るような気がします。

岩田　吾郎

７０年代ブント世代の私にとっては「伝説」的な人でした。2000年くらいに面識を得ました。短いおつき会いでしたが、「伝説」的なリーダーシップは、本物という感じでした。

遠藤　槙夫

全電通で長い間運動してきました。反戦・反核・反原発・反差別・働く者の権利拡大の闘いを、職場を原点に分会活動の中で地域の仲間と連帯して取り組んできましたが、総評運動がつぶされ連合組織になる中で闘いが無くなっていきました。そんな状況の中で、電通合同労組の仲間と知り合いＮＴＴ労組と決別して、前田さん達がつくってくれた、文字ど

おり闘う労働組合に参加しました。

私たちの知らない労働運動の原点の闘いのお話しを何度か聞かせていただきました。人間のぬくもりを持った、まさしく活動家だと感じました。晩年もよく集会やデモでごいっしょしました。永い間ご苦労様でした。そしてありがとうございました。私も前田さんのような運動を続けます。

垣沼　陽輔

前田さんと初めて出会ったのが1984年頃だと思います。当時は関西地区生コン支部が運輸一般労組から決別して、全日建産業労働組合との合流を進めている時に樋口さんを介してお会いしたと思います。全電通のような大労組にも階級的労働運動をつき進む人が居たのに驚きました。「合掌」

加来　洋八郎

前田さん！　まあまあ思い通りの人生を過ごせて良かったですね！然し現実は心配していた反動政治がまかり通り、更に勢いを増そうとしています。安倍自公・維新政治の反動ぶりを明らかにし、闇を照らす光を現実のものとすることが出来ないまま他界することになったのが心残りだったろうと推測します。前田さんの「心残り」を私たちの課題として「光」を現実のものにするために挑戦します。私たちが変わり、日本会議・安倍自公・維新政治に対抗する統一戦線づくりと議会政党づくりに挑戦し、大衆運動の発展と議会とを結びつけてキャンドル革命で文政権を誕生させた韓国民衆・進歩連帯・参与連帯に学び、ピンチをチャンスに変える政治勢力づくりに本格的に挑戦します。力を貸し下さい。

加藤　智恵子（キエフ）

今年になって、元気なお姿で「やっと着いたよ」といつもの部屋へ直行され、「そうか、そうか、今日だと思ったんだが」と淋しげな言葉を耳にし、淋しげな様子を垣間見てしまいました。

一と休みなさって、いさぎよく背中を見せられたので、奥さまへのメッセージに「ピロシキ」を託しました。「また、来るね」と帰って行かれたのがなんとも切ない後姿でした。いい人でしたね。

まだ、まだ語りたいことばかりだったことでしょう。忘れません。

要　宏輝

昔、「わからなくなったら左にはねろ！」という言葉を党派の活動家から、よく聞いた。様々な課題と運動で「左の左」を競い合った、日本の「一九六八」。「あの時代」のピーク

の1968年、私は前田さん、西村卓司さんと三人で京大大学祭のシンポジウムに同席することがあった。以降、田中機械闘争・大阪集会・労働情報を軌軸に前田さんとの長い同行が続いた。「労戦統一」で別々の道を歩むこととなったが、前田さんは寛容な友誼で遇してくれた。組織や運動のエッセンスは人と磁場、豪放磊落にして大衆的センスで「生涯現役」を貫かれた好（よ）き先輩でした。

松上　辰之

もっと長く僕たちの側にいて欲しかった。

僕が18歳の時（1961年）、現在の阪神医療生活協同組合結成の原因にもなった、共産党との「東尼崎診療所争奪戦」の日々の現場に僕もいたのですが、前田さんもおられたことをずぅーと後で知りました。それが出会い？

前田さんは大先輩なので当たり前といえば当たり前なのですが、私に声をかけるとき、ぶつきらぼぅで上から目線？でしたが、なぜか偉ぶってる感じもなくそれが前田さんなのだとなんとなく納得していました。僕が失業したとき、親身に心配していろいろと職を紹介していただき。本当に情の熱い人だと思っていました。

あそこの蕎麦が旨い、あそこのウナギが美味しいなどと結構グルメな人でもありました。

気さくな人柄で前田さんから何も言われても憎めない人、意外に庶民的な人。本当にもっと長く側にいてほしかった。まださよならは言いたくありません。

木戸　進次

前田さんとのつきあいは全くありませんが、大阪中電の闘いは書物等による情報で見聞きしていました。ただ、尊敬するのみです。

桑本　克彦

参加の皆さんと共に前田さんを偲びたいと思います。

後藤　厚

自身は飲まないが、酒飲み連中とずっとつき合ってきた。その時も想いを語る前田さんは熱かった。

小山　師人

山暮れて　もみじの朱を　奪いけり

在間　秀和

戦後労働運動・左翼運動の生証人でしたが、遂に生の声を聞くことができなくなりました。寂しい限りですが、みんなで引き継いでいきましょう。

佐々木　眞成

ヘボ碁ながら、泊りの時は、どちらからともなく、碁敵を捜し廻っては、打ってましたね。陣地への侵入を決して見逃すことなく、ぎりぎりと攻める碁風は運動スタイルと同じ。そちらで友をみつけるのは難しいでしょう、しばらく待っていて下さい。

杉　浩史

＝前田裕晤さんのこと＝

そうか・・。やっぱり「そう」だったのか・・。

「前田さんを偲ぶ会」から連絡を戴いた時、思わず私の頭をよぎった思いである。

何故か、最近になってトンとお声が掛からないことから、２～３年ぐらい前の夏頃だったか、随分と歩行に難儀しておられる様子を鑑み、ヒョッとしたら・・、といけないことを考えてしまって、そんなバカな考えをもってしまった自分自身を叱ったりしていたのだが・・。

前田さんは同志社大学の新文学で、同じ「ゼミ」の先輩である。同じ・・って言っても、学年が随分と異なり、彼はそのゼミの第一期生であり、私は＜最後輩＞なのである。そのゼミの教授は「住谷申一」先生で、世間的には左程高名な方でもないと思うが、学生たちには随分と人気の高い先生であった。

ところが先生は、私達のゼミの途中で他界され、それがために、私たちの学年が、永遠に最も若い学年、つまり先生の「最後の教え子」に・・なってしまったのである。

卒業後しばらくしてから、先生の命日に近い７月の土日に、祇園南・高台寺のさる料理旅館で、上から下までのゼミ生が寄り集う「同窓会」をして一泊をし、翌日曜日に墓参りをして散会する・・というのが例年のことになった。その楽しい集まりを中心的にお世話して頂けたのも、彼・前田裕晤先輩だったのである。

時代は逆にさかのぼるが、６５年の春には私も卒業・就職をし、その職場（関大生協）では、色んな形＝取分け、人材供給面で、お世話になった。当時は大卒よりも高卒の確保が難しい時代だった。彼がどういうツテで、ああして若い人材を紹介してくれたのかは、未だに謎であり、結局その謎は解けないママ、現在に至り、結果、今となっては永遠に解けることが無いワケで、目出度くも＝永遠の「お蔵入り」＝・・ってことに。

さて、どちらが先かは、判らねど、いずれは必ずヤ＝やってくる＝お別れ・・とは言え、やっぱり無念の思いが募る。ツノる。

前田さん、ホントーにお世話になりました。有難う。アリガトウ。

私も今や喜寿を迎えました。近々そちらの世界へ、馳せ参じることになるのかも・・。では・・。

杉村　昌昭

前田さんとは、たぶん、私が７０年代末に三里塚闘争の救援会にかかわっていたときからのおつき合いでした。したがって、かれこれ４０年のつき合いであったということで、けっこう長い間のつき合いだったと改めて思い起こしています。その間、どこか気の合うところがあってよくいろんな場所で歓談したことをなつかしく思い出しています。

杉本　昭典

私が前田氏と初めて合ったのは、1961年、故、師岡佑行氏のアパートでした。安保闘争、診療所闘争、政治活動と色々と話し共感しました。その後、70年代以降、とくに全国労活の活動では大変お世話になり、第一次訪中団など思い出があります。とくに前田氏の監修で、私たち「尼崎の政治、労働運動」が出版され、大変感謝しています。

今年４月会ったときは、難聴でリハビリ中とかで、まさか、亡くなられるとは残念です。私と話したとき、戦後労働運動をまとめると語り、戦後の運動の関係図書などを渡し、これからというとき亡くなられ、残念です。ご冥福を祈ります。

高橋　登（泉大津市議会議員）

闘う労働運動の歴史を全身で担ってこられた前田裕晤氏は、まさに労働運動の「職人」とも言うべき、時代の寵児的存在であったのではないだろうか！声の大きさもさることながら時折独特の大風呂敷を広げ、私共を鼓舞しつつけて頂きました。

労働運動が低迷する時代状況の中で「笛吹けども踊らず」でどれ程、はがゆく、悔しい思いをなすった事か！前田氏の「思い」をしっかりと引き継ぐ、労働運動、社会運動、政治運動の再構築が私共に課せられた課題と認識して追悼とします。

谷口　光敏

電通合同に入れて楽しいサラリーマン生活が送れました。前田さん、ありがとうございました。

野口　修

ともに“怒れる世代の会”でこれから活動する予定だったのに。一寸早すぎるようで残念。ま、２人分活動することとする。

辻　惠（元衆議院議員・弁護士）

前田裕晤さんの謦咳に接したのは３年余り前で、私が主催している連続講演会に２度お越し頂き、未だ衰えぬ熱い思いを感じさせて頂きました。70 年安保闘争における大阪中電マッセンストライキ等のお話しを聞かせて頂く機会があればと願っていましたが、果たすことができず残念です。

国際協調と自由貿易を基調とする国連を戴く戦後世界体制が真向から否定される時代の転換期に入った現在、前田さんの大衆運動の戦闘的牽引の力に学び、本物の政権交代を実現するために余力を尽くすことを、前田さんにお誓いするものです。

仲尾　宏

はるかなり、1960 年１月。「わびすけ」（京都市上京区）にてブント参加を勧誘し、その思いに応えてくれた人。その後のひたむきな実践活動の数々が万華鏡のように思い出されます。ご冥福を祈ります。

中野　修

1995 年、吉岡徳次さんを団長とする日中労交の訪中団として、前田さんと１０日間、共に行動できたことをなつかしく思います。同部屋で、ずいぶんお世話になりました。
全労協運動でも、僕が頓挫していた時も、会えば「君の席はまだあるよ」と励ましてくださいました。お世話になりました。ありがとうございました。

中村　勉

前田君より一年おくれで大阪中電に入社し、一年おくれて退職し、７０年間彼の後をついて活動してきた僕にとって人生の先輩であった。政治運動、労働運動も活動されたが、彼と 1982 年中電で“ぴよぴよ”という同人誌発行し、彼が「堂島川の青春裸像」を４号まで書いた作品は文学的にすぐれた作品として今でも印象に残っています。谷川雁と前田君と三人で曽根崎新地にてフグ料理を食べながら、文学と労働運動について話し合った一夜を思い出しました。

前原　英文

前田さんの魅力は全国的な視点で政治を語り、そのように行動する、できるところだと思います。六甲山に抱かれて生活しつつ、全国をかけ巡っていました。その想いを少しでも引き継いでいけたらと思います。前田さん、御苦労さまでした。そしてありがとうございました。

中村　吉政（港合同）

1970年代中頃から吹き荒れた倒産、破産、刑事弾圧の中で、労働情報で発信にした大きなうねりの先頭になってこられた故人の姿が思いうかびます。私的に言えば、倒産、解雇闘争を闘う過程で労働情報関西の配達を一時担当したことがあります。猛者ぞろいの会議に出席した経験は、今の私の源であり、多くのことを学びました。

今の運動をなげく事なく、前進することが私たちの使命と思っています。長い間ごくろうさまでした。

野坂　昭生

私は国労、前田さんは電通、のち電通合同労組と所属する労組もちがい、かつ前田さんが大阪、私が京都と活動の場所もちがい、日常的な労組活動や社会活動での交流はあまりありませんでした。

だが、1980年代、労働運動の産業報国化を目指す、労働戦線の右翼的再編に抗する「労働運動研究センター」活動を通じて交流を深めました。

「マッセンスト」なる主張で、私など国鉄労働者の決起を呼びかける熱血漢でした。会う度に煽られていた印象が残っています。

堀　義明

大先輩です。お疲れ様でした。忘れません。

町田　有三

1964年4月16日、扇町公園での６４春闘勝利大阪青年学生総決起集会からのおつきあいでした。民同右派を名乗る私達にもまじめに左派の立場から意見を交わして下さいました。夢をかなえるはできませんでしたが、闘い続け、悩みつづけた前田先輩の生きざまには心から敬愛を表します。

ごくろうさまでした。

三木　章司

電電公社入社以来、お世話になりました。前田さんの運動への一貫した想いに敬意を表します。

森　博行

日本の左翼労働運動に大きな航路を残して来られた故前田裕晤氏に対し心より哀悼の意を表します。安らかにお眠り下さい。

八木　健彦

戦後民主主義と戦後反体制大衆運動を一身に体現して来られた生涯、本当にご苦労様でした。感謝にたえません。前田さんの思いと姿勢を少しでも引き継いで頑張っていけるように微力を尽くしていきたいと思います。

矢嶋　信廣（元国労新幹線支部委員長）

大阪全労協結成の準備段階の諸会議でお逢いし、歯に衣着せない、話っぷりに度肝を抜かれた強い印象があります。半面優しい一面も多々有り、温かい指導者でした。
お酒を呑まない方ながら、席では楽しく話され、多くのことを学びました。ありがとうございました。

梁　官　洙

初志を曲げず、労働運動の進歩的方向へ突進してこられた故人の一生に尊敬の念を捧げます。

吉坂　泰彦

前田さんが亡くなられたのは本当に残念だ。５０年近く、お世話になった。ヘルメットの色は違っても、区別もせずに、意見を聞いてくれた方だ。労働運動だけでなく、あらゆる分野で自分の見解をもって対応してくれたスゴイ人でした。中電マッセンスト、丁氏との再会、怒れる世代の会など、ここに書ききれない内容を前田さんと共有させていただいたこと、感謝しています。
最後の最後まで、この世界を変革する思いを忘れずに、私も活動したいと思います。合掌

今西　正行

93年頃に尼崎労館で活動家の会議「６０年安保闘争尼崎」の語る会に招かれ、K氏が全体的の闘いを、私から「6.4尼崎大物公園での右翼との闘い」を中心に闘いの報告したときに、会議後に「あの闘いはすごかったな、良く闘った」と声をかけてきたのが前田さんでした。その時はじめての出会いでしたが、労働運動や政治闘争の大指導者で、多くの若い活動家を指導、育成された大人物であることを知りました。その時からお話をすることになり、多くの感銘を受けたことです。ご冥福をお祈り致します。

濱田　英次

「だまっとら連」にてお世話になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

梶原　義行

前田さんとは芦屋で取り組んでいる「石ころの会」でいっしょでした。吹田での闘い（朝鮮戦争時の弾薬を止める）の話や敗戦したときの人々の様子などを聞かせていただきました。また「怒れる老人の会」のおさそいを受けました。前田さんの思いは私とほぼ同じで共感しました。前田さんの思いを引き継ぎ　働いていきます。

伊地智　和雄

自分の信じる道を最後まで貫き通す不撓不屈の精神の持主だった。惜しまれてならない。私は老齢の為、偲ぶ会に出席が出来なくて残念だ。拙宅で中電時代の在りし日を偲び冥福を祈るつもりだ。

佐藤　修

前田さん。私のNTTへの就職、あるいは在職中はいろいろお世話になりました。プライベートな事で参加できませんが、階級闘争がより前進する事を祈ります。皆様に宜しく。

橋本　芳章

前田さん、生前は何かとお世話になり、ありがとうございました。熱い想いで語っていただいた姿が印象的でした。安らかにお眠り下さい。合掌

村川　隆昭

大変お世話になりありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

池上　文夫（福山市市会議員）

前田さんには、35年近く常に叱咤激励を頂き、闘って来ました。今もその言葉が聞こえてくるようです。長年のご指導ありがとうございました。安らかにお浄土へ行って下さい。合掌

中村　大蔵

大学時代よりその名前はよく耳にしていました。尼に来て、グッと近くになり選挙毎に「オイ！出えへんのか」とドヤされ、最後は芦屋の保育園、役員会で一緒になり「もう耳、聴こえへんのや、ウンウン頷いているけどな」と好々爺。

金子　恵美子

前田さんは朝鮮が苦難の行軍をしている一番厳しい時代に米の支援をされたり、私たちよど号グループとも親しく会い、いつも暖かい言葉をかけて下さいました。国内においても常に私たちのことを心にとどめ、集会への参加など変わらぬ支援をして下さいました。そのご恩は決して忘れません。天国からも私たちを見守って下さい。

今の日本を考えたら安らかには眠れないでしょうが、せめて肩の荷はおろして残った皆の闘いを見守って下さい。「ヨチヨチ歩き」になっても闘う前田精神、忘れませんよ。ありがとうございました。

本家　良子

深いお付き合いはありませんでしたが、85年間ご自身の生きたい生き方をされてたと思います。本当にお疲れ様でした。

大野　進

以前、訪中したときに中華総工会の王明然氏に総工会について怒ったのを覚えています。私もそうありたいと思って過ごしています。

伊藤　弘子

前田さんと私との出会いは、1970年当時の全電通新入組合員教育合宿の場であり、幹部として講師をされておられました。その後、戸村選挙のウグイス嬢や大きな大会での宣言文の代読など突然の依頼がありましたが、世代や職場の違いもからか生産現場で闘いを共にしたという実感はあまりありません。けれど、電通合同結成大会のおり、市川誠氏に出席いただき大きな手で握手していただけたのも、総評のその後に向けた前田さんの手腕なのだと覚えております。ご冥福をお祈り申し上げます。

平本　邦成

長い間、本当にお疲れ様でした。

小川　洋子

前田さんは、私の夫の友人を通しての関係でした。一生涯労働運動や反戦平和の活動をなしとげられた信念の人だったと思います。御冥福を祈ります。

青山　眞理子

夫　青山征人は本年5月22日に亡くなりました。生前　お世話になりました。

片山　明

前田さんも人の子　死んでしもうた。当方も心不全、不整脈の頻発、救急車搬送三度、もうすぐ行きます。そやけどあっちでは目と目があってもしらんふりします。行ってらっしゃい。

魚野　亨

数回しかお会いしたことはありませんが、労働運動の先達として貴重なお話をされていたことを覚えています。

山田　耕作

御奮闘ありがとうございました。

泊　寛二（全港湾西成分会）

思い出すまま・・・　前田さんとの思い出

前田さんの名を初めて聞いたのは１９６９年秋だった。１０／２１国際反戦デー、中電マッセンストの方針の違いをめぐり前田さんの名がでた。４～５人の座談で「オレは前田さんにメシを食わせてもらったしな～」「前田さんはええ人だしな～・・・」とか話していた。私は２０代初めだった。６９年１月より地区反戦の活動を始め全港湾西成分会の組合活動も始めたころで、学生運動（社学同など）の縁はなかったので、発言の深い意味は分からなかった。「芦屋」「市場」「メシ」「ええ人」というコトバと共に前田さんの名を記憶している。

前田さんは三つの層（領域）を貫く活動をし、三つの層の顔をもつ珍しいタイプ（型）の人だ。一つは電通合同（職場）の労働者、二つは労働情報・全労協など労働運動活動家、三つは社会主義政治党派の活動家としての三つの層を一身に体現していて、忙しかったと思う。これからの情報化、ＡＩ（人口頭脳）の社会、三つの層（領域）をカバーできる「前田型」労働者がもっと生まれてきて力をつけて活躍して欲しい。

私は、中之島の労働情報集会などで先頭になって動いている前田さんの立居振舞いをよく見ていた。また、６９年頃の梅田・中電北地区の労働者・活動家たちからよく聞いていた。前田さんは、そのような人の結合や流れは分かっているようだった。前田さんの「退職祝いの集い」の案内状がいろんな縁で私にも回ってきて、参加することもあった。

１９９０年代、泉州労連の上田さんと地下鉄でバッタリあった。上田さんは「さっきまで前田さんと会ってたけど、あんたら前田さんをイジメたんちゃう。前田さんがいってたで～　あんな活動アカンわ」と言われた。心当たりはなかったが、６９年秋の座談は思い出した。

それから何年かして、国労会館で３０人ほどの集会があり、天満の食堂で二次会になった。そこで奇妙にも前田さんと私が小さなテーブルを挟み初めてガチンコ対面することになった。前田さんも私もウーロン茶で酒は飲まない。素面の前田さんが「オイ、とまり。オマエ、オレをばかにしているだろう」と、静かに低い声で目をすえて言った。急な切り込みに「そんなことないですよ」と言うと、「いや、オマエはオレをばかにしている」と言い、私が「してませんよ」。「いや、してる」「してませんよ」「いや、してる」と４～５回同じことの繰り返しが続いた。そのことは今もはっきり覚えている。その後、一時間以上も二人で座っていたが、どう話題を変えてどんな話をしたのかは記憶にない。

それから何ヶ月かして森之宮・野外音楽堂で秋の反戦集会があった。「オーイ、とまり～」と大声で叫ぶ人があり、かなわんなーとそちらを見たらニコニコしている前田さんだった。近づいて来て「オイとまり、一万円や」と「ＤＶＤ」の小さな箱を渡された。買うのはもう決まっている。一万円出して当たり前、の圧倒的勢いだった。天満二次会の前田さんの詰めを思い出しながら一万円を出していた。前田さんが遠ざかった後で、「二段構えの時間差攻撃」にキッチリやられたなーとの思いだった。

その後、「杉本昭典と尼崎の政治・労働運動」とかいろんな本が送られてきた。神戸・尼崎方面の運動・歴史は知らなかったので助かったし「オイ、とまり。オマエ、神戸・尼の方、知ってるか。オレはこれやでー」という声が聞こえてきそうな本もあった。

ある時、前田さんの「出版記念集会」がエル大阪であった。何故か発言を指名された。「このような出版は記録を残すことであり、良いことです」とか短く喋って演壇を降りて、左を見たら前田さんが座って鋭い目でこちらを見ていた。「なんや、そんなことしかいえんのか」みたいな目つき・顔つきに見えて、まいったなーと思った。一番最近では１０余人ほどの会議で同席したが、前田さんが意見を論じるのを初めて聞いた。発言がどちらかいえば四角四面の原則論で、柔軟・老獪な雰囲気の前田さんとは不釣合いに感じた。

後、二つ。

数年前、泉州労連の上田さんが亡くなり葬儀に行った。活動家の救援活動をしていた柳田さんと一緒になった。知り合いの六人ほどでメシを食い柳田さんと泉州から電車で帰ってきた。車中、柳田さんが「上田さんのことを前田さんが言ってたぞ」とやはり前田さんの話になった。

北地区で活動していた大森さんが晩年入院していて見舞いにいったら「前田さんが見舞いに来てくれたわ。大森の活動と闘争は立派なもので、ぜひ記録に残すべきだ」と言ってくれた、と大森さんがすごく喜んでいた。ここでも前田さんだった。

１１／３０の偲ぶ会は、組合絡みの会議が遠方であり参加できません。

義理を欠きますが、そっちも大事やなーと前田さんは言ってくれそうにも思います。前田さん、組合の会議に行ってきます。

平石　昇

前田裕晤さんの名前を最初に知ったのは、１９７１年、人文社闘争の最中に、前田さんと同じ同志社・神学部の後輩で闘争のリーダーだった故Ｋさんからでした。中電マッセンストの中心人物だったとか、すごい話ばかりでした。以来約半世紀！よく、「平石！」と呼び捨てられ「前田節」を聴かされました。今となっては、もう一度、呼び捨てられたいものです。

石田　俊幸

中電でのストライキ、全労協幹事会やゼネ石組合事務所に大阪全労協議長になるよう要請に来られたことなどなど、いろいろ思い浮かんできます。長い付き合いだったです。天国でも横山・小野木さんと語られていることでしょう。合掌

奥薗　健児

前田さんとの出会いは８０年代初頭の頃でした。それ以来、公私にわたってご指導を受けた３０有余年でした。その前田さんとのお別れはとても辛く寂しいです。どうぞ安らかのお休みください。

西村　卓司（元・三菱長船労組副委員長）

前田裕晤君の死を心から悼みます。まことに残念です。

君は私のかけがいのない盟友であります。歳月を顧みれば、三里塚の戸村一作委員長を擁立して議会闘争に挑んだこと、原子力船むつを佐世保から青森まで追跡した「人民の船」の闘い、そうして、たたかうすべての人々と新左翼労働運動の結集をめざして「労働情報」誌の創刊とその継続など、君とともにあった議論と行動の日々が、次々と脳裏に去来して参ります。そのとき、君はいつも、一陣の風吹きぬける言動でとどこおる空気をかきまわし溶かしてくれました。

前田裕晤君、先立たれて今、私はあらためて思っています。きみは頼りになる、本当に好い漢でした。　さようなら。いつかまた、会いに行くよ。

丹羽　通晴

ずっと対等の関係だった

はじめて前田さんと会った(というより認識した)のは20歳代半ばの頃。とある集会で知人が前田さんと話しているのを見て、「これが前田ユーゴか」と知った次第。その後、田中機械の倒産争議集会を手伝うことで前田さんとの接触が増え、80年頃に労働情報大阪支局の事務方になって以降、月３回以上は会う関係になった。当時は月２回刊で、田中機械の

１室で港合同分を仕分けし、さらに郵便局から郵送。その後は基本的には市バスで関生支部、中電、岩井計算センターへと労働情報誌を運んだ。中電で前田さんを呼び出して雑誌を渡すが、ここでは二言三言話をするくらい。労働情報の大阪支分局会議がやはり田中機械で月１回程度あって、２月会議の内容や労働運動の課題、政治的課題についての議論もした。労働組合歴のない私にとって、この場は「労働運動の学校」でもあった。会議後は弁天町駅近くの居酒屋に雪崩れ込むことも多く、酒を呑まない前田さんは文句を言いながらもときどきは付き合っていた。

こういう場、あるいは２人で会うとき、前田さんはよく昔話をした。だいたいが50、60年代の組合運動や政治活動の話。私の運動歴以前のことばかりだったから、それはそれで興味深かった。多くの人が言い、書きもしているが、前田さんとは政治認識や運動方針で意見が異なることも多かった。実務的なことでは「ああそうか」と納得されることも多かったが、政治認識や運動方針については頑固一徹だった。「マッセンスト以降は政治世界からは離れた」と言っていたが、前田さんはあくまで政治好きだった。政治的に「？」と思わせる言動も多かったが、それは政治センスの問題というよりは、あまりにも楽観論、楽天的な性格に帰せられるものかと思う。一方で大衆運動の感覚では「だてに歳をとってはいねえな」と感心した事例も多かった。そんな前田さんだが、自分の意見を無理強いすることはなかった。親子に近い年齢差(19歳違い)があったが、最初から最後まで対等の関係として付き合えることができたと思う。

馬場　徳夫

追悼の言葉

前田さん、本当に永い間ありがとうございました。

前田さんから譲っていただいた「革のカバン」は、もう３０年間大切に使っています。右に妥協しそうな時、あきらめたい時、活動をサボタージュしたい時、カバンが重たくなります。きっと前田さんが怒っていたのでしょう。このカバンがある限り、私の中に前田さんがいます。どうか安らかにお眠りください。

荒井　康裕

集会 etc きっとお会いしていた、とは思いますが面識なく。

新井　利諦

前田さんの“おい、お前”に元気をもらいました。もう聞けないと思うと寂しいです。御冥福をお祈り致します。

林（リン）和雄（ホウシュン）

労働運動の活動家でもない私が前田さんと話しをするようになったのは、共生と自治の合宿に参加するようになってからです。前田さんは選挙の分析をされるのですが、東京都知事選挙、服部さんの選挙など、私にはそういったことは全くの素人なもので、感心して聞いていました。結果は甘いというよりも、希望を述べられているようでした。周りの人に話すと、言葉通り受け取っているのは君ぐらいだと、みんなは当たり前のようにスルーしていたようです。しかし、何かがあるたびに、走り回っている姿に感心させられました。お会いするのは選挙や尼崎の集会、杉本昭典さんの出版記念会など、尼崎に住まわれていないのになぜか尼崎の運動に当然のように参加されていたのが思い出されます。お酒は飲まないかわりにヘビースモーカーで、たばこを片時も離さないことを思い出します。

長生きをしてほしかった御大ですが、今頃は向こうの世界でも労働運動や政治活動を頑張っていることでしょう。ご冥福をお祈りします。

酒井　一（尼崎市議）

新左翼の出身で市議会議員をしている私の前に、ある日いきなり、何の前触れもなく表れたのが前田さんでした。私にとって、議員をするからには新左翼の文化のいくつかはしまい込まなくてはいけなかったのです。しかし、前田さんはいきなり私の前に新左翼の文化そのものとして現れました。

それは、それまで世話になった尼崎のどの先輩たちとも違う、一切の経緯経過を捨象した新鮮さでした。新鮮と言えば聞こえは良いですが、私にとっては、現実との妥協で棚に上げていたものを引きずりおろして突き付けられたようなものでした。
その意味で怖い存在だったのですが、論争に対して誠実であったという点に、前田さんのやさしさを見ていました。敬意をもって頭をたれ。ご冥福を祈ります。

森村　敏孚

残念ですが出席できません。他の会議と重なり申し訳ないです。

前田さんとは労働情報創刊時よりお世話になり以降、大阪集会・全労協大阪
等々ご指導ご鞭撻をいただき、大変感謝しています。

有難うございました。

安らかにお休みください。

平出　正人（大阪電通合同）

今年の４月２５日に下血し入院していると連絡を受け見舞いに行ったのは５月に入ってからでした。顔が少しむくんだ状態で、体もだるそうにされていた前田さん。その後、体

調も落ち着きリハビリを受けながら頑張っておられたのに。私が前田さんと最後に会ったのは６月１４日でした。その時は笑顔で『元気になって９月の尼崎の集まりに行くからな』と言っておられたのに。帰り際、ぽつりと『平出いつもすまんな』の最後の一言が今も深く胸に残っています。

前田さんたち大阪中電の先輩を中心に１９８５年１２月８日、全電通と決別し新たな労働組合『大阪電通合同』が結成されました。私は結成に向けた相談会に何回か顔を出した記憶がかすかに残っており、前田さんとの出会いもその頃だったと思います。ただ、結成には参加せず私が組合に加盟したのは結成から２０年近く後なので、電通合同の前田さんというのは全く知りません。いつごろからだったか、前田さんが私たち尼崎の会議に参加され始めたのをきっかけに親しくお付き合いをさしていただくようになりました。ただ、尼崎の先輩たちはむやみに全国政治に引っ張りまわす前田さんに閉口することもたびたびあったみたいです。『俺が着ていた服や。いややなかったら着てくれ！』とジャンパーや衣類も頂きました。ジャンパーを羽織るとほんのりとタバコの香りが・・。前田さんの汗と涙（？）とたばこの香りが沁み込んだジャンパーや衣類は今も大切に着ています。

私が『いくつになっても老いに不満を持たず、自分ができることの中に楽しみを見つけていきたい。歳相応に年齢を受け入れて人生を楽しむことができれば最高だと思います』とメールしたところ、『君は誰を指して自分と対比しているのか？俺は老いに不満を持っている。君の言葉は何か悟りきっているように見えるが、まだそれはないだろう！』と手厳しい返事をいただいたのは昨年のことでした。

ここ数年は前田さんと一緒に仙台、東京、京都等へ出かけていきました。二人の弥次喜多珍道中、そのたびにいろんなエピソードを作ってくれた憎めない前田大先輩。もし、組合結成に参加し前田さんと一緒に組合活動をしていれば今とは違う私があったのではと思いつつも、相当不満とストレスが私の中にたまったのでは！ある意味、いい時期の少し丸くなった前田さんとより良い関係を続けられたことに感謝しています。最後に組合結成に参加しなかった私を前田さんはどう思っておられたのか聞くことができないのが心残りです。

生涯現役として最後まで頑張ってこられた前田裕晤さん、あなたへの尊敬と感謝をこめて、本当にありがとうございました。

畑中　清博

裕晤さんのお元気だった頃の口調を思い出します。さみしいです。当方足許が見えず不覚にも庭で転倒しました。肋骨が３本も骨折です。医者より 2,3 ケ月かかると言われ消沈しています。偲ぶ会に出席できず残念です。出席の皆様によろしくお伝え下さい。

能勢　充希

「我が国」論争？

前田さんが大阪全労協議長（初代）の最後の１年間を、不肖私が事務局長をさせてもらいました。

前田さんが、それまでどおり、定期大会の議案書の「はじめに」を書いてくれることになりました。私は、外国人の組合員もいる中で、「我が国」は問題だと思い、「この国」に変えて原稿を作成しました。二人で、少し議論をして、結論は「日本」で一致（妥協？）しました。

前田さんは頑固だったのか、柔軟だったのか、その両方だったのか、今でもわかりませんが、懐かしい記憶の１つです。

また、前田さんには、大阪電通合同労組（初代委員長は前田さん）が結成される前、全電通中電分会の頃、職場を案内してもらったことも鮮明に記憶に残っています。「中津地域共闘」、「だまっとら連」を含めて長いおつきあいをさせていただきました。

長年お疲れさまでした。

降矢　加奈子

卒業後、旧大阪中央電報に入局し半世紀以上お世話になりました。誕生日が近づくと、“世が世なら国民の祝祭日になるのに”と言っていたのをおぼえています（マルクスと誕生日が同じ）。子供のまま大人になり年をとっていった人でした。ご冥福をお祈りします。

高木　典夫（同志社・住谷会）

私のチャペルでの結婚式、前田さんの登場に、女房の友人、場ちがいを感じて、何で、「高木は、自分が親がわりだ！」。５０年にわたって、同志社・住谷会の不詳の後輩として、お世話なりっぱなしでした。

数多くの同輩、後輩の「おくりびと」として半世紀、御苦労様でした。底抜けに、お人好しで、世話好き、めんどうみのいい人でした。

「苦しいときに、調法な男」苦しいとき相談出来る数少ない人がいなくなりました。

大内　忠雄

全電通に絶縁状をたたきつけ大阪電通合同結成からずっと四国電通合同・電通労組を軸にした電通全国協議会議長だった前田さん。

ＮＴＴ本社と団体交渉で激しく渡り合った前田さん。「議長引退する」を無視し終身議長にしてしまいました。

左派の大先輩で、われら電通の大親分。日中友好を始め世界的な視野と「ヒンターラン

ド（人民の海)」へ、市民・大衆の目線で考え行動しろと怒鳴る声が聞こえそうで、今でも身が引き締まります、が、やさしい笑顔も浮かびます。有難うございました。

寺田　道男

29日から1泊2日の日程で反天皇制運動の会議が東京であり、前田さんを偲ぶ会に参加できません。申し訳けありません。

「怒れる60年・70年世代の会」で改憲阻止・原発再稼働さ志の取り組みを、ご一緒にさせて頂いた事に感謝しています。京都「キエフ」での会議が忘れられません。

野口　英俊（四国電通合同）

「年々歳々花相似・歳々年々人不同・此翁白頭真可憐・伊昔紅顔美少年・・・・・・・。老人パワーを集めて歴史の逆流を阻止する年にしたい」と、８２歳の前田さんの年賀状にありました。

困った時に、徳島まで飛んできてくれたこともありました。歳を重ねても前向きで、行動的であった前田さんの姿が目に浮かびます。ご冥福をお祈りします。

佐々木　眞成（合同繊維労働組合執行委員長）

前田さん、お疲れさまでした、安らかにお眠りください。と言っても前田さんのことだから、「皆、もっと怒れ」と、号令を掛け続けて休むことも出来ないかもしれませんね。「怒れる」長文を幾度となく送られてきていましたが、プツリと途絶えたので体調崩されたかと気にしていました。私とはヘボ囲碁の碁敵で、全労協の泊りの会議ではいつも相手させられていました。麻雀もよく誘われましたが、決して上手とは言えない、只闘うのが好きで、実に真っすぐな「戦士」だったと思います。本当にお疲れさまでした。

前田　重幸（四国電通合同労組）

私が高校を卒業して徳島電話局に就職したのが１９５８年。明くる年三池闘争に参加し、これが労働組合に認められ青年委員会の委員長になりました。時あたかも６０年安保のまっただなか。

前田裕悟さんとの出会いは、この頃だったと思います。徳島出身の京大生を通じて知る事とになり、以後今日まで大阪中電との密接な交流が始まりました。

私にとって最大の出来事は、１９６８年に交通事故で解雇された時、急遽前田裕悟さんが大阪から飛んできて下さって、裁判闘争の手はずをととのえ、大阪弁護士会の松本健男弁護士を紹介して頂き、９年に及ぶ裁判闘争に勝利したことです。

その後、私は職場復帰し、日本の労働運動が右傾化する中、全電通から脱退し、大阪電

通合同労組と共に四国電通合同労組を結成し、今日にいたります。

前田裕悟さんは、私にとって労働運動の師であり、人生の恩人であります。どうか安らかにお眠り下さい。

大江　和夫（阪神合同労組委員長）

阪神合労の再出発（2009年）以来、顧問として私たちを温かく見守ってくれました。真剣に政治を語る前田さんは、その豊富な知識と現場主義に裏打ちされており、いつも感服させられました。再入院されたと聞き、お見舞いにいくと「阪神合労の大会には必ずいくからな」と3度も念を押されました。「早く元気になって必ず来てくださいよ」と約束して別れましたが、その2週間後に前田さんの訃報に接しました。今でも豪放磊落な笑顔と声が浮かんできます。前田さんの遺志を受け継ぎ、困難な時には笑いで吹き飛ばし、前向きに闘いを取り組んでいきたいと決意しています。

野村　貴

階級的労働運動の前進にむけ、多大な功績をあげられた事に敬意を表します。
様々な激励をいただきました。

広畑　貞昭

私の前田さんとの出会いは、1972年ごろの阪神労働学校の講師と生徒だった。以後、事あるごとに、前田さんがさまざまな運動を提起され、尼崎の活動家と共に活動されるのを見てきた。尼崎の古い活動家も地域にとどまることなく、労活運動、三里塚連帯する会の運動など全国的な左派労働運動、政治に真正面から向き合った。地域から全国に打って出る印象だった。

何年ぐらい前だったか定かではないが、前田さんが尼崎の定例会に参加するようになった。なぜという疑問があったが、当の前田さんは意にかえさない。ずっと会員であったかのように振舞う。その頃の私たちは、市議選、市長選など制度圏への取り組みに頭を奪われていた。前田さんから見れば、妥協した議論など歯がゆくてしょうがない印象を持たれたに違いない。私たちも、むやみに全国政治に引っ張りまわす前田さんに閉口したこともあった。

しかし、考えると、前田さんは全国的なリーダーであり、年齢的にも過去の名声の元、悠々自適に人生を過ごしても良いはずだ。その前田さんが、一世代以上も違う一地域の活動者グループと対等に議論し、新たな運動を作ろうとした。

前田さんが晩年によく使われ言葉に「ヒンターランド」がある。同志社大学の岡本教授の教えらしいが「人民の海」の意と言い、イデオロギーではなく、大衆的立ち上がりこそ

を基礎にすべきと常に言われていた。その現実主義（多少、楽天主義？）が多くの人々をひきつけ、労働運動や左派政治の中心に前田さんを押し上げた理由かとも思う。

こうした緊張した数年を共に闘う中で、私たちは、全国の様々な闘いとつながり、社会変革をめざす一員に自分たちを置くことができたと思う。

最後の最後まで、前田さんと共に闘うことができたことを、私たちはこの上なく誇りに思う。前田さん、ありがとうございました。

山下　恒生(大阪全労協顧問)

１９７５年だったか、私は国鉄解雇前の自宅待機中に大阪中電食堂で前田さんに初めて会った。「(首になるようなことを）させたんか」と私の先輩になじるように言った。その言葉に、どこかホッとした。労働者の気持ちがわかるんだと。１５年後、大阪全労協結成となり、前田議長のもと事務局長の任についた。電通合同の仲間から「前田さんは何でもやらせてくれるから、自由にやれ」と激励された。そして、ユニオン・出版・事業という３大活動方針が生まれてきた。方針がどれくらい実現できたかは二の次であり、まだ夢の途中と言ってもよいのが前田流。前田さんは労働運動よりは政治運動が好きだった。６０年安保と７０年安保の世代の違いからか、選挙闘争については意見を異にした。２００３年、日中労交訪中団（吉岡団長）に加わり、前田さんの案内で総工会等との交流を行った。釣魚台迎賓館に中国革命をやり遂げた張香山を表敬訪問したが、張香山とは何回もあった仲だったらしく、「前田さんとは同志ではないが戦友だ、と言われたことがある」と嬉しそうに語っていた。前田さんは革命を夢見る青年だったのである。

晩年の前田さんは、世の中の右傾化に引きずられたのか、革命を語らなくなった。私がもはや社会主義ではなく、リージョナル革命の時代だと挑発しても、乗ってこなかった。寂しい限りである。活動や考えを報告したい人がまた一人いなくなった。

前田裕晤さんを偲ぶ会　列席者一覧

ご遺族

前田　浩子	お連れ合い
熊崎　未来子	裕晤さんの長女
前田　拓	裕晤さんの長男
中谷　典子	裕晤さんの妹さん

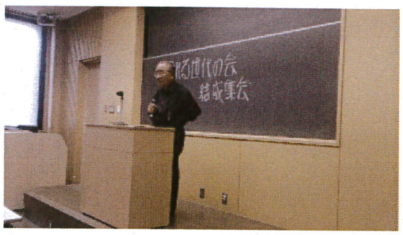
あ	青枝　忠夫	四国電通合同
	浅野　紀男	大阪電通合同
	新井　利諦	大阪電通合同
	荒木　喜久	大阪電通合同
	石田　俊幸	大阪全労協顧問
	岩田　吾郎	WEB リベラシオン社
	遠藤　槙夫	大阪電通合同
	大内　忠雄	電通労組委員長
	大野　周子	関大交友連絡会
	尾形　淳	関西新時代社
	小川　昌義	電通労組
	小川　美智子	電通労組
	沖　幸典	元大阪港湾労組
	奥薗　健児	元全日建運輸連帯労組
	小原　吉苗	ひまわり医療生協
か	垣沼　陽輔	全日建近畿地本委員長
	加来　洋八郎	元全港湾大阪支部委員長
	片岡　卓三	医師
	加藤　智恵子	キエフ・奈良女子大ＯＢ
	要　宏輝	元連合大阪副会長
	来住　文男	大阪保線所分会
	北川　靖一郎	
	木戸　進次	
	桐谷　敏弘	
	金原　正宏	
	久野　成章	8.6 ヒロシマ平和のつどい事務局
	熊野　強人	大阪府総合労働事務所
	桑本　克彦	大阪電通合同
	児玉　晴海	
	後藤　厚	元全港湾大阪支部
	小山　帥人	映像ジャーナリスト
さ	在間　秀和	弁護士
	酒井　一	尼崎市議会議員
	佐々木　眞成	合同繊維労組執行委員長
	笹部　昌己	阪神合同労組
	新開　純也	反戦・反貧困・反差別共同行動　世話人
	杉　浩史	同志社住谷会
	杉村　昌昭	龍谷大学名誉教授
	杉本　昭典	元全国労組交流集会議長
	鈴木　勝泰	郵政産業労働者ユニオン
た	高木　典夫	同志社・住谷会
	高橋　登	緑の党･泉大津市議
	瀧川　順朗	洛南労組連
	竹下　大	元・南大阪平和人権連帯会議事務局長
	竹林　隆	大阪全労協事務局長
	但馬　けいこ	大阪全労協議長
	谷　秀樹	社民党
	谷口　光敏	大阪電通合同
	辻　惠	元衆議院議員・弁護士
	寺本　勉	教育合同
	冨永　猛	ヨンデネット大阪
	豊澤　善通	四国電通合同
	鳥井　一平	移住連
な	仲尾　宏	反戦反貧困反差別共同行動代表世話人
	中北　龍太郎	弁護士
	中野　修	大阪教育合同労組
	中村　猛	全港湾建設支部
	中村　勉	大阪電通合同
	中村　吉政	港合同
	西村　隆平	元大阪市職労

	丹羽　通晴	大阪全労協副議長		三木　章司	大阪電通合同
	野口　修	怒れる世代の会　共同代表		三木　甯生	元だまっとら連
	野口　英俊	四国電通合同		三橋　秀子	関西共同行動
	野坂　昭生	国労 OB・京都		宮島　臣一朗	大阪電通合同
	能勢　充希	大阪全労協		宮原　光一	社民党
	野村　貴	自立労連		元木　英宏	四国電通合同
は	服部　良一	元衆議院議員		森　博行	弁護士
	馬場　徳夫	全港湾大阪支部・元委員長	や	八木　健彦	さよなら原発なら県ネット
	平石　昇	元全港湾大阪支部		矢島　信廣	元国労大阪地本副委員長
	平出　正人	大阪電通合同		泰山　義雄	大阪全労協
	広畑　貞昭	あまがさき共生と自治 21		山﨑　秀樹	大阪電通合同委員長
	福田　徹矢	大阪全労協顧問		山下　恒生	大阪全労協顧問
	星川　洋史	関西共同行動		山中　紀代子	元大阪府議会議員
	堀　義明	前草津市議		山本　将嗣	関西共同行動
ま	前川　武志	日中労交事務局長		山本　洋司	阪神合同労組副委員長
	前田　重幸	四国電通合同		梁　官洙	大阪経法大教授
	前田　純一	堺からのアピール		吉坂　康彦	前交野市議
	前原　英文	ユニオンおおさか		米澤　鐵志	被爆体験証言者
	町田　有三	元連合副事務局長	ら	林　和男	中国人強制連行受難者を支える会
	松上　辰之	阪神合同労組前委員長	わ	渡邊　充春	関西三里塚闘争に連帯する会
	浅田　隆二			田川　晴信	反戦反貧困反差別共同行動

世話人　（５０音順）

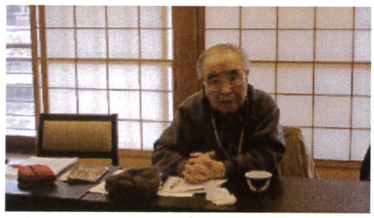
垣沼　陽輔、久野　成章、在間　秀和、新開　純也、杉村　昌昭、但馬けいこ
中尾　宏、中北　龍太郎、西村　卓司、丹羽　雅雄、野口　修、服部　良一
馬場　徳夫、広畑　貞昭、山崎　秀樹

政治とのかかわり



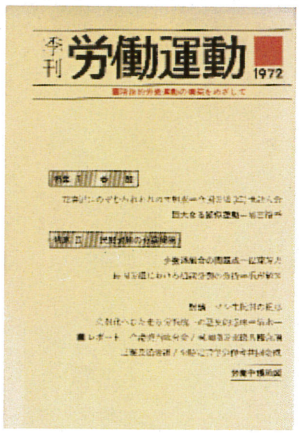
怒れる世代の会結成集会

怒れる世代の会大阪集会



最後の政治懇談会（宇治）

編集に関わった



ご苦労様でした

【連絡先】 大阪電通合同労組
〒540-0031　大阪市中央区北浜東１-１２
TEL 090-9095-5833(平出)　FAX 06-6966-2015
Mail : futukayoi@olive.plala.or.jp